社長就任あいさつ

現場を知るフィジカルAIカンパニーへ

エコモット株式会社 代表取締役社長 **松浦 年晃**

自己紹介



松浦 年晃

代表取締役社長

2006 ○ **KDDI 入社**

通信を軸にさまざまな事業をつくる

通信 / IoT / 事業開発 / M&A

2022 ○ **Community Mobility 代表取締役副社長**

（現 KDDI Smart Mobility）

新しい地域交通サービスを全国約60か所へ導入

経営 / 事業創出 / 自治体連携

2026 ● **エコモット 代表取締役社長**

2026年11月26日 就任

日本全体が直面する課題

今のやり方の延長線上では日本の未来につながらない

人口減少
2020年→2040年

1,331万人減

高齢化
2040年の高齢化率

34.8%

生産年齢人口
2020年→2040年

17%減

労働生産性
2024年・時間当たり

28位／38か国

インフラ老朽化
2040年に建設50年超の道路橋

約75%

災害の激甚化
強い雨・1980年ごろと比べて

約2倍

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」／国土交通省／日本生産性本部／気象庁

人口減少・高齢化は、全国より約10年先を行く。日本の課題の最前線です。

人口減少	高齢化	働き手不足	インフラ老朽化
雪・冬の災害	地域交通の維持	ヒグマの出没	一次産業の継承

この課題に正面から挑む。

北海道で解決できれば日本のどこでも解決できる。
エコモットは札幌からその先頭に立ちます。

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より

エコモットは

これまでの現場力を武器に、
フィジカルAIカンパニーへと変わります。

変わらないこと：現場力

エコモットは変わらない。▶ 現場力

現場と徹底的に向き合い、お客様・パートナーとサービス・プロダクトを作り上げる

01 現場に入る ▶ 02 課題を見つける ▶ 03 共につくる ▶ 04 導入して動かす

これまでの実績

16,000件超

の現場を支えてきた

共に歩んできたパートナー（一部）

KDDI　積水樹脂　戸田建設　村本建設

現場で考え、現場で使える形で動かし続ける。これはこれからも変わらない

変わること：フィジカルAIへのシフト

エコモットは変わる。▶ フィジカルAIへのシフト

フィジカルAI領域

現場で解決する（ロボット・ドローンが対処）

フィジカルAIでは

- ロボットの目と耳
- AIの学習
- ロボットの見守り
- 動かし続ける力

▲ ノウハウを生かして取り組みを加速

▲

IoT領域

現場を監視する（見える化し異常を知らせる）

IoTのノウハウ

- センサーの設置・設定
- 現場データの蓄積
- 24時間の監視
- 保守・運用

IoTをやめるのではない。IoTで培ったノウハウをフィジカルAIで最大限に生かす

フィジカルAI事例：ヒグマ対策 ―「監視」から「解決」へ

これまで：監視する



固定カメラ：点でしか見えない

有人巡回：担い手が足りない

これから：解決する



固定カメラ×ロボットが連携

早期発見＋侵入抑制

見つけて終わりにしない。
早期発見から侵入抑制（動物との共存への挑戦）までフィジカルAIで現場を守る

経済産業省「Go-Tech事業」採択：ヒグマゾーニング管理支援ロボットシステムの研究開発（2026年8月～2029年3月）

ユースケースの連携：空と陸から現場を守る

空からだけ、陸からだけでは分からないことを**つないで解く。**



同じ仕組みで

- 密漁対策・沿岸警備
- 鳥獣対策
- 災害時の状況把握
- インフラの見回り

単体ではなくつないで現場を守る。様々なデバイスを連携してサービスを作るのがエコモット

フィジカルAIの担い手：エコモットが勝負するのは「現場」の層

大手企業が、数百億〜兆円規模で投資

頭脳（AIモデル） エコモットは使う側	海外の大手半導体企業	国内大手企業の連合
ロボット本体 主戦場は工場	大手電機・ロボットメーカー	ロボットベンチャー
通信・運用基盤 利用料で稼ぐ	大手通信事業者	IoT通信事業者

現場実装・運用
ロボットサービス運営者

屋外・寒冷地・地方の現場で、
24時間動かし続ける

頭脳・体・通信を組み合わせ、現場で動かし続ける。そこがエコモットの持ち場

エコモットの役割：フィジカルAIトータルコーディネーション

様々なパートナーと新たな価値を共創する。

様々なパートナー

- ロボットメーカー
- ドローンメーカー
- センサーデバイス
- AI・通信企業
- 研究機関大学
- 自治体地域

エコモットが担うこと

01	02	03	04	05
導入支援	お客様連携	機器設定	機械学習	保守・運用
計画策定	導入支援	必要機器設定	AIモデル調整	保守サポート

緑の文字＝収益の源泉

価値を届ける先

- 運輸業界
- 一次産業
- その他業界

導入から運用までエコモットが支援。継続的に価値を届け収益を積み上げる



様々なパートナーとの**共創の場**をつくります。

その舞台は

藤山水産加工

北海道白糠町フィジカルAIベース

藤山水産加工のご紹介：なぜ白糠町なのか



株式会社藤山水産加工（北海道白糠町）


大型水槽 15トン


目の前は太平洋

事業承継	創業	好立地	設備
2026年3月	1986年（40年）	釧路空港から20分	様々な施設が存在

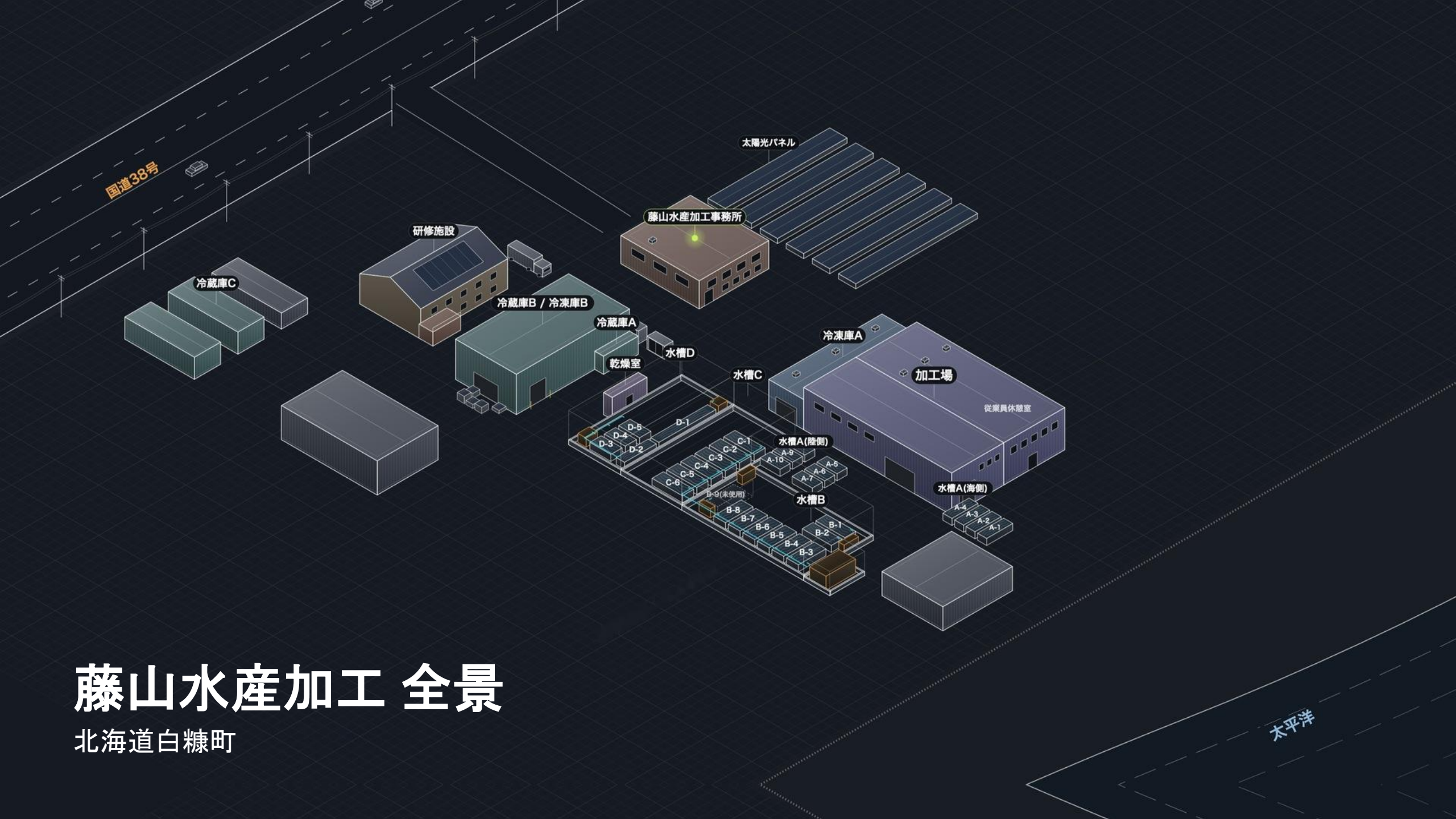
フィジカルAIを
いちばん必要としているのは

地方の現場

人手不足に一番困っているのはルーラルエリアです。

札幌 ではなくあえて **白糠町**

パートナーと一緒にお客様視点で新しい価値を創造



藤山水産加工 全景

北海道白糠町

パートナーと本物の現場で試し実装までつなぐ。

パートナー
様々な
パートナー

メーカー・企業
研究機関・大学
自治体・地域

▶

藤山水産加工（北海道白糠町）

フィジカルAIベース

IoT　ドローン　フィジカルAI

PoC
現場で試す
▶
実装
使える形にする
▶
保守・運用
動かし続ける

本物の現場（藤山水産加工）で フィールドワーク から グループディスカッション まで一気通貫

▶

その先へ
全国の
現場へ

社会実装

本物の現場で試し実装まで支援する。北海道からフィジカルAIの社会実装を加速する

PHYSICAL AI

AIは現場で動いて
初めて価値になる。

ECOMOTT VISION

人とAIが共生する社会を
現場から。

エコモットは、人とAIが共に働く未来を作る会社に変わります。

フィジカルAIの第一歩：四足歩行ロボット



現場を知る私たちだからこそ
現場で動かせる。

経済産業省 Go-Tech事業

アーバンベア対策

自律巡回

エコモットが担うこと

- センサーデバイスを取り付け・設定
- 現場のデータでAIを学習
- 現場で動かし続ける保守・運用

新しい常識を創る、
ネクストステージへ

現場を知るフィジカルAIカンパニーへ
エコモットは挑み続けます